実践団体情報

記入日	西暦 2020 年 12 月 25 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
代表者名	松原　勝己
プラン全体のタイトル	守ろう自分の命、家族の命 ～高める防災力の輪～
電話番号	（０５８４）８９－４８１６
メールアドレス	c27371@gifu-net.ed.jp
実践団体の説明	知的障害、肢体不自由、病弱障害のある児童生徒が学ぶ特別支援学校である。校内分掌に防災安全部を設置し、防災教育や、家庭、地域との連携の推進に取り組んでいる。
所属メンバー	代表　校長　松原勝己　　担当　防災安全部長　山本隆史 防災安全部防災推進係を中心に計画・実施
活動地域	・岐阜県立大垣特別支援学校及び児童生徒居住地域 （大垣市・養老町・垂井町・関ケ原町・神戸町・池田町 瑞穂市） ・交流校所在地（愛知県豊橋市）
活動開始時期・結成時期	令和元年１１月から（計画時期含む）
過去の活動履歴・受賞歴	

プラン全体の概要	災害発生時は、児童生徒自身が自分の命を守る力や学校職員、家庭、地域の防災力が必要である。しかし、当校は、防災に関して、家庭や地域との連携が不十分であった。そこで、学校・家庭・地域の繋がりある防災力を一つの輪と考え、一つ一つの防災力を高め、防災力の輪を強化し、命を守り切る力をつける活動を実践した。 １．学校（児童生徒・職員）の防災力を高める取組み ○学校防災計画（災害対策マニュアル）を職員に周知徹底する取組み（職員防災力テスト） ○命を守る訓練

	○シェイクアウト訓練 ○防災掲示板 ○生活単元学習での防災学習 （小学部５年生・中学部３年生・高等部３年生） ２．家庭の防災力を高める取組み ○家庭の減災力テスト ○災害伝言ダイヤルクイズ ○家庭への情報発信（保健だより） ３．地域との連携を深める取組み ○合同研修会（校内見学・ＨＵＧ）

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
４月	シェイクアウト訓練立案		
５月	職員防災カテスト立案	職員防災カテスト作成	
６月	家庭の減災カテスト立案 合同研修会立案	減災カテスト用紙印刷 自治会への案内作成	シェイクアウト訓練（毎月） 職員防災カテスト（毎月）
７月	災害伝言ダイヤルクイズ立案 合同研修会講師との打ち合わせ	保護者案内、解答用紙準備 研修会資料準備	家庭の減災カテスト（１回目） 保健だより配付（避難方法） ＊９月、１１月にも配付 防災掲示板更新（備蓄） 自治会との合同研修会
８月	第１回命を守る訓練立案	実施要項作成	災害伝言ダイヤルクイズ
９月	防災掲示板内容検討	掲示物作成	第１回命を守る訓練
10 月	生活単元学習単元計画 交流校と日程調整	教材準備 オンライン交流用機材準備	防災掲示板更新（地震対策）
11 月	生活単元学習計画調整 交流校と内容調整	家庭内ＤＩＧ用紙等 オンライン交流用機材	生活単元学習（防災学習） 豊橋特別支援学校交流授業
12 月	防災掲示板内容検討	掲示物作成	家庭の減災カテスト（２回目）
１月	第３回命を守る訓練立案	実施要項作成	
２月			活動報告会
３月			

プラン全体の反省点・課題・感想	・職員防災カテスト等、既存のシステムを用いて実践することで、実施者の負担を大幅に増やすことなく、新たな防災活動に取り組むことができた。 ・他校との交流等を通し、自分の考えを自分の言葉で相手に伝えることができ、学習内容の定着が見られた。
今後の活動予定	・今年度取り組んだ活動について、検証・改善しながらより良い活動に発展させていく。

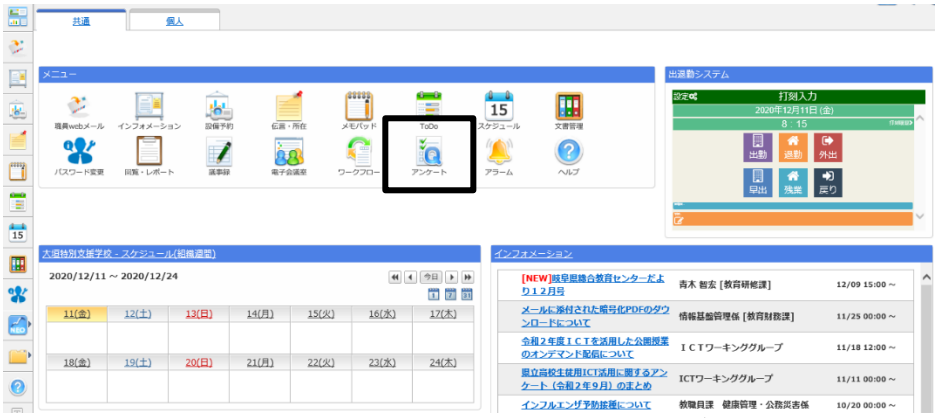
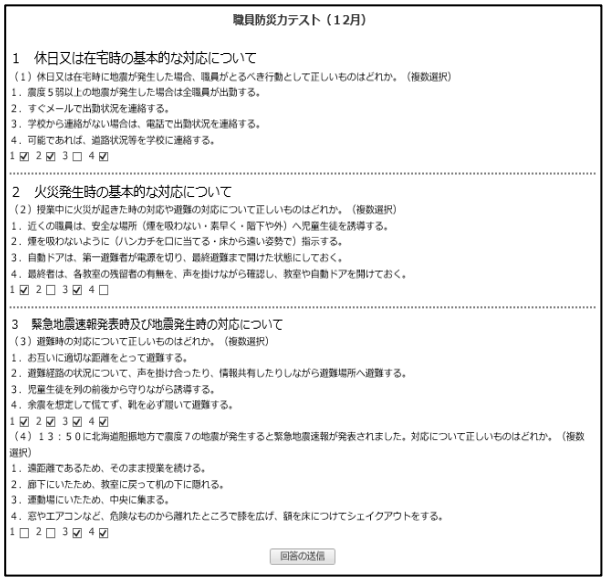
	・防災安全委員会（会議）に地域住民や専門家に参加してもらい、地域との連携を深めていきたい。

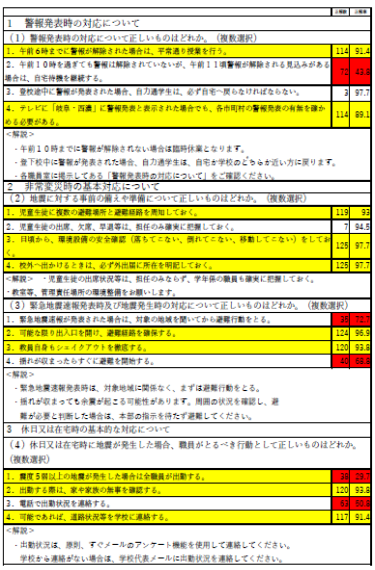
実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2020 年 12 月 10 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	１
タイトル	職員防災力テスト 学校防災計画（災害対策マニュアル）の周知徹底
実践担当者のお名前	山本隆史　　山本悟（防災安全部職員）

実践にかかった金額	ほぼ０円
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 6 月 8 日～西暦 2021 年 3 月（予定）
実践の所要時間	算出不能
実践の運営側で動いた人の人数	４人
防災教育の対象者の属性	教職員
防災教育の対象者の人数	約 150 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・パソコン（グループウェア・エクセル）に詳しい職員 ・教育委員会運用のグループウェア（アンケート機能）

達成目標	・学校防災計画（災害対策マニュアル）をより確実に全職員に周知徹底 　できる方法の確立を目指した。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	少し

実践内容・方法	**1．職員防災力テストシステム開発** ○教育委員会が運営するグループウェアのアンケート機能を活用 ＜パソコン表示画面＞  ・職員メールや校内外の電子掲示板、施設予約等ができる機能 ・アンケート機能（黒枠）を活用 ＜アンケート画面＞  職員防災力テスト（12月） 1　休日又は在宅時の基本的な対応について （1）休日又は在宅時に地震が発生した場合、職員がとるべき行動として正しいものはどれか。（複数選択） 1．震度５弱以上の地震が発生した場合は全職員が出勤する。 2．すぐメールで出勤状況を連絡する。 3．学校から連絡がない場合は、電話で出勤状況を連絡する。 4．可能であれば、道路状況等を学校に連絡する。 1 ☑ 2 ☑ 3 □ 4 ☑ 2　火災発生時の基本的な対応について （2）授業中に火災が起きた時の対応や避難の対応について正しいものはどれか。（複数選択） 1．近くの職員は、安全な場所（煙を吸わない・素早く・階下や外）へ児童生徒を誘導する。 2．煙を吸わないように（ハンカチを口に当てる・床から遠い姿勢で）指示する。 3．自動ドアは、第一避難者が電源を切り、最終避難まで開けた状態にしておく。 4．最終者は、各教室の残留者の有無を、声を掛けながら確認し、教室や自動ドアを開けておく。 1 ☑ 2 □ 3 ☑ 4 □ 3　緊急地震速報発表時及び地震発生時の対応について （3）避難時の対応について正しいものはどれか。（複数選択） 1．お互いに適切な距離をとって避難する。 2．避難経路の状況について、声を掛け合ったり、情報共有したりしながら避難場所へ避難する。 3．児童生徒を列の前後から守りながら誘導する。 4．余震を想定して慌てず、靴を必ず履いて避難する。 1 ☑ 2 ☑ 3 ☑ 4 ☑ （4）１３：５０に北海道胆振地方で震度７の地震が発生すると緊急地震速報が発表されました。対応について正しいものはどれか。（複数選択） 1．適距離であるため、そのまま授業を続ける。 2．廊下にいたため、教室に戻って机の下に隠れる。 3．運動場にいたため、中央に集まる。 4．窓やエアコンなど、危険なものから離れたところで膝を広げ、頭を床につけてシェイクアウトをする。 1 □ 2 □ 3 ☑ 4 ☑ 回答の送信 ・様々なアンケートに活用されていた機能で、回答状況や回答結果を集計することができる。 **2．実施方法** ○スケジュール ・第１週→問題作成 ・第２週→問題配信 ・第３週→回答集計 ・第４週→結果、解説回覧（回覧もグループウェア内で行う） ○問題作成

<table>
<tr>
<td></td>
<td>
・学校防災計画（災害対策マニュアル）から毎月４問出題する。
・問題を考えることで、できるだけ多くの職員が学校防災計画（災害対策マニュアル）を再確認できるように、防災安全部職員４名が輪番で問題を作成した。
・問題作成時は、時期に応じた内容や前月に正解率が低かった内容を
出題した。
（例）　６月→警報発表時の対応について
９月→地震への対応・対策について
校外学習中の対応について（校外学習が多い時期）
・問題作成者が問題原稿を配信担当に渡し、配信担当がアンケートを
作成する。
○問題配信
・配信担当者が第２週の月曜日に問題を配信する。
・配信担当者は回答状況を確認し、未回答者に連絡する。
○回答集計
・アンケート機能の結果は、エクセルに反映されるため、右図のように集計できる。
・正解率が低い問題が分かるように文字を網かけした。
○結果・解説回覧
・結果集計後、解説を記載し、グループウェアの回覧機能を活用し、結果と解説を回覧した。


</td>
</tr>
<tr>
<td>得られた成果</td>
<td>
・学校防災計画（災害対策マニュアル）を全職員に周知徹底する方法を
確立することができた。
・職員防災カテストを毎月実施することで、「○○の場合はどうすると良いか。」等の会話が増えたり、マニュアルを確認したりする職員
</td>
</tr>
</table>

	の姿が増え、防災意識の向上が見られた。 ・問題作成にあたり、学校防災計画（災害対策マニュアル）を毎月見直すため、改善点等を検討する機会が自然に増えた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し
課題・苦労・工夫	・当校の実施方法では、グループウェア機能が必要である。また、ある程度パソコンに詳しい職員が必要である。（場合によっては、他分掌との連携が必要） ・新型コロナ関係のアンケート等、毎月数多くのアンケートがあるため、混在したり、職員の負担とならないように実施したりする必要がある。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災担当の先生方
伝えたい内容	災害発生時の対応や災害への備えは担当の職員だけではできません。その為、危機管理マニュアルの職員への周知は必須ですが、周知方法に苦労されている先生も多いと思います。本実践は、既存のシステムを用いたことで、職員への負担も少なく、効果的に実施できたと思います。既存のシステムを上手く活用し、危機管理に関して全職員が自分事として意識をもつことができる取組みが大切だと思いました。

記入日	西暦 2020 年 12 月 11 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	２
タイトル	命を守る訓練・シェイクアウト訓練 様々な被害を想定した避難訓練
実践担当者のお名前	山本隆史

実践にかかった金額	ほぼ０円
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年６月～西暦 2021 年２月　＊２月は予定
実践の所要時間	命を守る訓練：30 分×１回 シェイクアウト訓練：１０分×６回　　合計９０分
実践の運営側で動いた人の人数	４人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校児童生徒・教職員
防災教育の対象者の人数	約 380 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	緊急地震速報受信機（訓練モードがあるもの） 飛散したガラスに見立てた卵パック等 地域の防災士（清流の国ぎふ女性防災士会会長：伊藤様）

達成目標	＜児童生徒＞ ・避難場所と避難経路、整列の仕方を知る。 ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を確認しながら安全に避難する。 ＜職員＞ ・基本の避難経路、手順を理解する。 ・児童生徒の実態に応じた安全な避難誘導が行えるようにする。 ・避難経路の状況を後続の職員に伝達し、情報共有しながら安全に避難誘導する。 ・新型コロナウイルス感染症に対応した分散避難方法を確認する。

<table>
<tr><td rowspan="3">どの力を身につけようとしましたか？</td><td>知識・技能</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">

１．命を守る訓練

・年３回（４月、９月、２月）実施することを計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響で計画を変更した。（９月、１２月、２月）

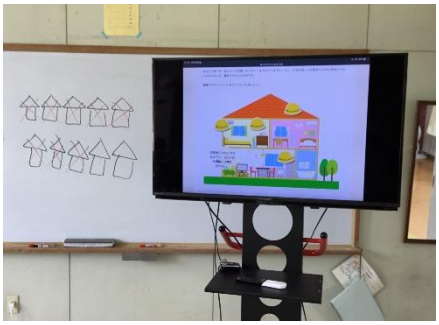
＊１２月はシェイクアウト訓練に変更

○第１回命を守る訓練（９月２日・１１日）

・避難場所での密集を避けるため、２日に分けて実施した。

・訓練前に事前学習を行い、学級ごとに避難時の注意点等を確認した。

・地震発生時の避難方法（１次避難）と火災発生時の避難方法（２次避難）を確認した。



○第２回命を守る訓練（１２月１１日）　＊シェイクアウト訓練に変更

・新型コロナウイルス感染症対策として、災害対策マニュアルに分散避難を追加し、検証のために計画した。

・避難場所

<table>
<tr><td>小学部・中学部・事務部</td><td>高等部・寄宿舎</td></tr>
<tr><td>スクールバスゾーン</td><td>グラウンド</td></tr>
</table>

＊活動場所によっては近い方に避難する。

＊雨天時は体育館に避難する。

・トランシーバーを使用し、安否確認や自主防災班（捜索・警備・救護）の活動指示の連絡方法を確認する。

・卵パックや食品トレーを廊下や階段、自動ドア前に散乱させ、地

</td></tr>
</table>

	震によるガラス飛散や自動ドアが使用できないことを想定し、避難経路の状況を伝達しながら避難する訓練を計画した。 ・地域の防災士（清流の国ぎふ女性防災士会会長：伊藤様）に訓練に参加していただき、助言をいただく予定だった。訓練を中止したため、実施要項を見ていただき、助言をもらった。 **２．シェイクアウト訓練** ○毎月実施（６・７・１０・１１・１２・１月） ＊命を守る訓練がある月は実施しない。 ○訓練の流れ ・緊急地震速報（訓練モード）を流す。 ・児童生徒及び職員は安全な場所でシェイクアウトする。 ・地震音を流す。 ・児童生徒及び職員は地震音が収まるまでシェイクアウト姿勢を保持する。 ・地震音が収まったら、落ちてくるものや倒れてくるもの、移動してくるものはないか確認する。 ○工夫した点 ・７月、１１月、１２月は非告知で実施した。 ・家族との外出先等、学校以外の場所で地震が発生した場合にも対応できるよう、緊急地震速報受信機（訓練モード）の警報音だけでなく、エリアメールでの通知音等、様々な警報音を用いて訓練を実施した。 ・安全な場所に避難できたか、危険な物は何かが分かるように、シェイクアウトしたまま事後指導を行った。
得られた成果	・地震や火災が発生した場合の避難方法が分かり、落ち着いて避難できるようになった。 ・緊急地震速報が発表された場合、素早くシェイクアウトすることができるようになってきた。 ・地震が発生した場合、何が危険なのか、どこが危険なのかが分かってきた。 ・新型コロナウイルス感染症に対応する避難方法をマニュアルに追加することができた。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し
課題・苦労・工夫	・新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた訓練が実施できなかったり、内容を変更せざるを得なかったりすることが度々あった。 ・岐阜県では、年度内に数回地震があった。内陸型の地震の場合、緊急地震速報よりも先に揺れがくることもあり、児童生徒が対応できなかったと保護者から教えていただいた。「緊急地震速報が鳴ったらシェイクアウトする訓練」しか実施しておらず、揺れたらシェイクアウトすることを身に付けるための工夫が必要だと感じた。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	伊藤三枝子様（清流の国ぎふ　女性防災士会会長）
関係者の説明	被災地でのボランティア経験が豊富な方で、学校や自治会を対象とした研修会や講座で講師を務められている。
関係者の連絡先	jyoseibousai2017@yahoo.co.jp

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	毎月実施するシェイクアウト訓練では、日を追うごとに児童生徒の動きが格段に良くなってきました。知的障害や発達障害がある子どもたちにとって、繰り返し練習することの大切さを実感できる実践であったと感じています。

記入日	西暦 2021 年 1 月 4 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	3
タイトル	生活単元学習　「まちたんけん」
実践担当者のお名前	山本隆史

実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 11 月 16 日～西暦 2020 年 12 月 3 日
実践の所要時間	70 分×13 日＝15 時間 10 分
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校児童（小学部）
防災教育の対象者の人数	11 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	学校周辺の公園や駅等
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・学校周辺の危険個所 （ブロック塀・堤防・交差点・踏切等）

達成目標	・自分たちが生活する学校周辺の探検を通して、学校周辺の自然の特徴や危険な場所を知る。 ・危険な場所での注意点や自らの身を守る方法を知る。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	**１．単元計画** ○日程 ・生活単元学習の時間（毎日１０：３５～１１：４５） ・児童の歩く力などの実態を考慮し、学校から２ｋｍ以内の公園や駅等を目的地とした。 ・初めは行き慣れた公園を目的地にし、徐々に難易度を高めた。 ○活動内容	

・手持ち用と掲示用の地図を準備し、行った場所の写真を貼り、地図を作成する。

・危険な場所や注意点を確認する。

・掲示用の地図ですごろくを行い、遊びの中で学習内容の定着を図る。

・掲示用の地図（すごろく）を交流校との間接交流に使用し、防災学習の内容を知ってもらう。

２．実践内容

○まちたんけん

・目的地を確認し、道路を安全に歩いた。

・堤防は雨の日は近づかないこと、ブロック塀は地震で倒れてくることがあるので近くを歩かないことなど、危険な場所を見つけたら注意点を確認した。

○すごろく大会をしよう

・作成した地図を使ってすごろく大会を３回行った。

・楽しくすごろくに取り組みながら、危険な場所での注意点や対応方法を繰り返し確認した。

○交流校との間接交流

・作成した地図を交流校に渡し、すごろくに取り組んでもらう。

・学習した内容を紹介するビデオレターを作成した。

得られた成果	・作成した地図ですごろくをすることで、楽しく取り組むことができる活動の中で、自分たちが生活する学校周辺の危険な場所や注意点を繰り返し学習することができた。 ・堤防やブロック塀を実際に見たり、触れたりすることで、違う場面でも「ブロック塀がある。危ない。」や「離れて歩こう。」と言いながら道路を歩く姿が見られるようになった。 ・交流校との間接交流で教材を提供することで、特別支援学校で取り組んでいる防災教育（実践内容や教材）を知ってもらうことができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	・すごろくを行った後にもう一度町探検に出掛け、児童にどれくらい知識や技能が身に付いたか確かめる必要があった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	・地域の防災士の方に危険な場所等の説明をしていただく計画もあったが実現できなかった。地域との繋がりを深める良い機会になるのではないかと思います。

記入日	西暦 2021 年 1 月 4 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	4
タイトル	生活単元学習　「守ろう自分の命、家族の命」
実践担当者のお名前	山本悟（中学部 2 年生担当・防災安全部職員）　山本隆史

実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 10 月 27 日～西暦 2020 年 11 月 20 日
実践の所要時間	上記期間のうち　2 時間×6 日＝12 時間
実践の運営側で動いた人の人数	約 10 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校生徒（中学部）・保護者/PTA
防災教育の対象者の人数	約 15 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市・愛知県豊橋市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校・愛知県立豊橋特別支援学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・家庭内 DIG 用紙（清流の国ぎふ　防災・減災センター） ・オンライン交流に使用する機材 （パソコン、ビデオカメラ、スクリーン等） ・Web 会議システム

達成目標	・災害発生時に自分の命を守ることができる知識や技能を身に付ける。 ・家族と一緒に家庭内 DIG に取り組み、自宅の危険な場所を知る。 ・学習したことを仲間や他校の生徒に向けて発表し、学習内容を定着させる。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	**１．単元計画** ○日程 ・生活単元学習の時間 ・初めは DVD 等を視聴して地震災害について復習し、調べ学習、家族との家庭内 DIG、学習発表の流れで実施した。 **２．実践内容** ○シェイクアウトについて ・スライドや動画を視聴し、ダンゴムシのポーズや柔らかい箱を落として物の落下や家具の転倒を体験した。 ○校内・家庭内ＤＩＧ ・校内の危険な場所を探し、模造紙にまとめた。 ・家庭内ＤＩＧの用紙を家に持ち帰り、家族と家の図面や家具の配置を記入し、危険な場所や物、対策方法を確認した。 ○まとめ ・学習内容をまとめ、生徒の実態に応じて担当する発表内容等を決めた。 ・学年集会や豊橋特別支援学校との交流会で学習内容を発表した。 **3．豊橋特別支援学校との防災学習交流授業** ○担当者による交流内容の検討（１０月下旬） ○Web 会議システムの接続テストを兼ねて事前打ち合わせ （１１月１０日） ○防災学習交流授業 ・令和２年１１月２０日（金）　９：３０～１０：００ ・対象　両校中学部３年生生徒 ・岐阜県教育委員会が運用している Web 会議システムを使用 ・防災学習で学んだことをお互いに発表 大垣特別支援学校：家庭内ＤＩＧで学んだこと 豊橋特別支援学校：「学防災」非常用リアカーと防災倉庫 ・積極的に質問したり、自分の知識を基に質問に答えたりする姿があった。

得られた成果	・地震発生時の対応についてシェイクアウト等の身を守る行動だけではなく、備蓄や家具の固定など、様々な知識や技能が身に付いた。 ・豊橋特別支援学校との交流会では、相手校の生徒の質問に自ら答える姿があり、思考力や表現力を高めることができた。 ・家族と一緒に防災学習に取り組み、実際に家庭の防災対策をした生徒もおり、家庭の防災意識や防災力の向上が見られた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	・オンライン交流には機材準備や当日の機材の調整など、ICT に関する専門的な知識のある教員が必要だった。 ・校内ＤＩＧや家庭内ＤＩＧで見つけた危険な場所が対策できているか 調べる学習ができると良かった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	①愛知県立豊橋特別支援学校 ②清流の国ぎふ　防災・減災センター
関係者の説明	①2020 年度防災教育チャレンジプランに取り組む特別支援学校 ②家庭内ＤＩＧ用紙（屋内危険性チェック）の提供
関係者の連絡先	①0532-61-8118 ②058-293-3890

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	・家族と一緒に防災学習に取り組むことで、学校で学習したことを家族に伝えられたという満足感や達成感が学習意欲をより高めた活動でした。 ・オンライン交流会では、初めて顔を合わせる他校の生徒とも積極的に関わり、自分たちが学習したことを伝えようとする姿が頼もしく感じました。

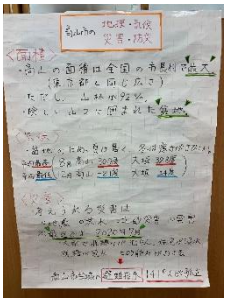
記入日	西暦 2021 年 1 月 4 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	5
タイトル	生活単元学習　「修学旅行事前学習」 高山市の地理・気候・災害
実践担当者のお名前	澤田恵美（高等部 3 年生担当・防災安全部職員）

実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 11 月 2 日～西暦 2020 年 11 月 18 日
実践の所要時間	1 時間×1 日、2 時間×7 日＝15 時間
実践の運営側で動いた人の人数	約 10 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校生徒（高等部）
防災教育の対象者の人数	6 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市・高山市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校・高山市
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・高山市在住の教員 ・高山市のハザードマップ ・ハザードマップを投影するプロジェクター・パソコン

達成目標	・修学旅行先（高山市）の地形や気候、災害を調べることで、防災に興味をもち、卒業後、旅行先や住んでいる地域での防災を考えられる態度や知識を育成する。 ・防災に関することを調べるための方法を知る。 ・地域によって災害に違いがあることを知り、災害＝地震だけでなく、 災害について幅広く興味をもつことができる。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	**1．単元計画** ○日程 ・生活単元学習（月・水・木曜日の５・６限目） **2．実践内容** ○調べたいことを決めよう ・高山市の地理や災害について調べたいことを書き出し、調べることをまとめる。 ・高山市のことについて質問する内容を考え、高山市在住の教員に質問状を送付した。 （質問例） ・大垣市と高山市では、家の造りに違いはありますか。 ・７月の豪雨の様子はどうでしたか。 ○高山市について調べよう ・地理チームと災害チームに分かれ、インターネット等を使用し、資料を自分たちで集め、高山市の地理や災害について調べた。 ○高山市のハザードマップを作ろう ・生徒の実態に応じて、地図の下書きチームと色画用紙を切るチームに分かれた。 ・地図の下書きチームは、プロジェクターを使用し、高山市のハザードマップをホワイトボードに映し出し、下書きした。 ＊河川は水色のペンで着色 ・色画用紙を切るチームは、ハザードマップを見て、必要な色を見つけ、色画用紙を細かく切った。 ・下書きされた地図に、ハザードマップを見ながら色画用紙を貼っていった。（土砂災害が想定される区域が多いことに気付く） ・完成した地図（ハザードマップ）上で自分たちが活動する場所や避難場所として想定している場所を確認し、印を付ける。 ・活動場所や避難場所、避難ルートで想定される災害を確認し、どのような行動をとるべきか確認した。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">



○調べたことをまとめよう
・調べたことを模造紙にまとめる。
○調べたことを発表しよう
・調べたことを同じ学年の仲間に向けて発表し、活動中に想定される災害や被害に遭わないための対応方法を伝えた。
3. 修学旅行当日の様子
・合掌造りの家を見学中、地震が起きたらどうなるか、台風がきたらどうなるかなど雑談する姿があった。
・当日は雨が降っており、見学地が山の近くであったため、「土砂災害は大丈夫？」等の声も聞こえたが、避難場所の確認もできていたため、強く不安を感じている様子はなかった。
・ハザードマップの内容と実際の景色を照らし合わせ、高山市の地理的特徴を理解している様子が見られた。
</td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">・ハザードマップや地域の災害を調べる方法を身に付けることができた。
・調べ学習を通して、自分が住んでいる地域の災害や防災対策についても調べてみたいという意欲が高まった。
・「災害は怖いもの」という捉え方だけでなく、対策をすることで不安を軽減できるという考え方が生徒にうまれた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">・調べる内容を、地形や気候を調べた後で災害と防災へ段階的に移行したことで、生徒が災害と防災を断片的に捉えるのではなく、地理的特徴と併せて考えることができた。</td></tr>
</table>

	・修学旅行の事前学習に災害と防災をどう定着させていくか課題である。

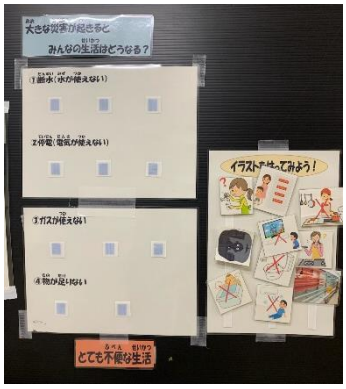
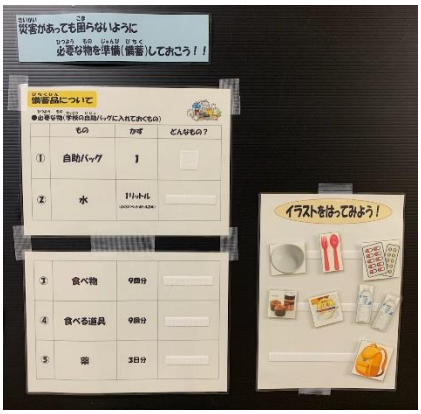
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	・高山市在住の教員
関係者の説明	・高山市の地理や災害について当校生徒の質問に資料を作成し回答してくださった。
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	・修学旅行の事前学習で防災に関すること？と感じることもあるかもしれません。しかし、将来、生徒が旅行に行くとき、「土砂災害は大丈夫かな？」「津波は大丈夫かな？」「避難する場所は？」と感じられることは大切だと思います。修学旅行や校外学習の事前学習での防災学習は、将来生きる防災力の育成として重要であると感じました。

記入日	西暦 2021 年 1 月 4 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	6
タイトル	防災掲示板の活用 ～いつでも・誰でもできる防災学習～
実践担当者のお名前	山本隆史　　河合夏希（防災安全部職員）

実践にかかった金額	1000 円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 6 月～西暦 2021 年 1 月
実践の所要時間	算出不能
実践の運営側で動いた人の人数	2 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校児童生徒・保護者/PTA・教職員
防災教育の対象者の人数	約 500 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・掲示物を作成するための材料 （紙・ラミネーター・ラミネート用紙・カラープリンター等）

達成目標	・いつでも、誰でも防災学習ができる掲示物を掲示する防災掲示板を設置し運用を定着させる。 ・知的障害がある児童生徒に有効な教材を研究・制作する。 ・防災に関することを常に目にすることで、児童生徒や教員、保護者の 防災意識を高める。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し

実践内容・方法	**1．防災掲示板運用計画** ・校舎１階中央廊下を掲示場所とする。 ・掲示計画（約３ヵ月ごとに掲示内容を変える。） ①７月～９月・・・備蓄について ②１０月～１２月・・・地震対策について 命を守る訓練の様子 ③１月～３月・・・地震以外の災害（洪水・土砂災害） **2．掲示内容** ○７～９月・・・備蓄について ①大規模な災害が発生した場合の生活が分かるようなイラストを準備し、各項目の場所にイラストを貼っていく。 ②必要な備蓄品（自助バッグに入れる物）が分かるように、各項目にイラストを貼っていく。 ③最後に、自分が必要だと思う自助バッグを作ってみる。 <全体> ①  ②  ③

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">○１０～１２月・・・地震対策について
命を守る訓練の様子
①学校の教室や自宅、通学路の危険な場所や物を確認する。
・危険な場所や物にはビックリマークと吹き出しを付ける。
②危険な物の対策についてイラストを動かして確認する。
③９月に実施した命を守る訓練の様子をまとめた掲示物
＜全体＞

①

②

③

○１～３月・・・地震以外の災害（洪水・土砂災害）
＊制作中</td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">・児童生徒が興味をもち、楽しそうに掲示物を見たり、教材を使用したりする姿が多く見られた。
・知的障害がある児童生徒に有効な防災学習用の教材を研究し制作することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>少し</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>少し</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">・小学部から高等部までの児童生徒が在籍しているため、幅広い年齢、多様な障害の状態に応じた掲示物を限られたスペースに収める</td></tr>
</table>

	ことが大変だった。 ・学校行事や生活単元学習等での防災学習内容や季節に応じた掲示内容を年間で計画し、次年度以降もそのまま使用でき、持続可能な実践となるよう工夫した。

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	・実践初年度は、年間計画や掲示物の制作がとても大変でしたが、次年度以降も継続して実践できるよう工夫しました。 ・掲示板の前を通るたびに、児童生徒が使用した形跡があり、生活の一部に防災学習を取り入れることの有効性を感じるとともに、とても嬉しく思いました。

記入日	西暦 2021 年 1 月 5 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	7
タイトル	家庭の防災力を高める情報発信 ～家庭の防災課題の把握と情報発信～
実践担当者のお名前	山本隆史　　河合夏希（防災安全部職員）

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	1 日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 7 月～西暦 2020 年 12 月
実践の所要時間	算出不能
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校児童生徒・保護者/PTA
防災教育の対象者の人数	約 400 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校・児童生徒自宅
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・減災力テスト用紙「減災教室」 （岐阜大学教授髙木朗義、一般財団法人 DoItYourself） ・保健だより ・避難行動判定フロー（内閣府）

達成目標	・児童生徒が家族と減災力テストを行い、防災上の課題を明確にする。 ・課題に応じた情報発信を学校が行うことで、児童生徒と家族の防災力（家庭の防災力）を高める。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し

実践内容・方法	**１．実施計画** ○家庭の減災力テスト ・対象　　全児童生徒の家庭に配付 ・７月と１２月に実施 ・７月のテストで家庭の防災上の課題を明確にし、学校から発信する情報の内容を検討する。 ・１２月のテストで７月のテスト結果と比較し、家庭の防災力の変容と学校からの情報発信の効果を検証する。 ・テスト用紙は、「減災教室」（岐阜大学教授髙木朗義、一般財団法人 DoItYourself）を使用した。 ○情報発信方法 ・保健体育部が発行する「保健だより」を用いて、２ヵ月に１回、防災に関する情報を掲載する。 **２．実践内容** ○第１回　家庭の減災力テスト（７月） ・テスト結果　　平均点５０．４点（１００点中） ・地震に関する項目の点数は高かったが、風水害や土砂災害、近所付き合いに関する項目の点数が低く、課題が明確になった。 ○保健だより（７月号） ・地震発生時の避難方法について掲載した。 ○保健だより（９月号） ・台風が多い季節であることから、第１回家庭の減災力テストで課題が分かった風水害や土砂災害について掲載した。 ・保健だよりの配付と同時に、内閣府が発行している「避難行動判断フロー」も配付し、ハザードマップや避難を始めるタイミング

	等の確認を促した。 ○保健だより（１１月号） ・避難所の確認について掲載した。また、新型コロナ禍での避難に関する事前の準備や注意点についても掲載した。 ○第２回　家庭の減災力テスト（１２月） ・テスト結果　　平均点５４．３点（１００点中） ＊７月のテスト時より平均点が約４点高くなった。 ・風水害や土砂災害について、ハザードマップの確認や避難場所の確認に関する項目の点数が高くなった。 ・近所付き合いに関する項目は点数が低かった。
得られた成果	・家庭の減災力テストを使用し、家庭の防災上の課題を明確にした上で情報発信をしたことで、風水害や土砂災害への意識が高まった。 ・他の分掌と連携した防災活動を実施することができた。

どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	少し
課題・苦労・工夫	・家庭の減災力テストの回答率は６５％程度であり、もう少し回答率が高まると良かった。 ・減災力テストの平均点が高まるような取組みが必要である。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	岐阜大学教授髙木朗義、一般財団法人 DoItYourself
関係者の説明	・当団体が制作、公表している「減災教室」を家庭の減災力テストで使用した。
関係者の連絡先	http://gensaikyoushitsu.sakura.ne.jp/

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	活動にご協力いただいた皆様
伝えたい内容	・減災力テストや集計表を使用させていただいたため、効率的に家庭の防災上の課題を明確にすることができました。今後は、継続的に

	本活動に取り組み、家庭の減災力が向上し、災害時、自助・共助で被害軽減できることを目指していきたいと思います。今後ともご指導よろしくお願いします。

記入日	西暦 2021 年 1 月 5 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	8
タイトル	災害伝言ダイヤルクイズ ～災害伝言ダイヤルを使ってみよう～
実践担当者のお名前	山本隆史

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 8 月 31 日～西暦 2020 年 9 月 5 日
実践の所要時間	算出不能
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校児童生徒・教職員・保護者/PTA
防災教育の対象者の人数	約 500 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校・児童生徒自宅
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・災害伝言ダイヤル（体験期間）

達成目標	・児童生徒及び保護者が災害伝言ダイヤルを体験できるようにする。 ・災害伝言ダイヤルの使用方法を理解し、必要時に使用することができる。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	全く
	学びに向かう力・人間性	少し

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">１．事前準備
○実施計画
・災害伝言ダイヤル体験期間中に学校が録音したキーワードを児童生徒及び保護者が聞き、解答用紙にキーワードを記入し、学校に提出する。
○災害伝言ダイヤル体験期間確認
・NTT のホームページで体験期間を確認した。
＊防災週間：８月３０日～９月５日
○保護者案内・解答用紙作成
・保護者案内には災害伝言ダイヤルの使用手順を記載した。
２．実践内容
○キーワード録音（８月３１日　９：００）
・学校の電話番号でキーワードを録音した。
（キーワード：じしんダンゴムシ）
○災害伝言ダイヤル体験
・児童生徒及び保護者は、災害伝言ダイヤルの音声指示に従って学校が録音したキーワードを聞き、解答用紙に記入し、提出する。
・職員防災カテストにキーワードを回答する問題を設定し、教員も体験できるようにした。
○結果
・回答数　９５　（回答率：約４０％）</td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">・災害伝言ダイヤルを実際に体験できる取組みとなった。
・災害伝言ダイヤルを体験することで、災害時の連絡方法を身に付けることができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>全く</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>少し</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">・保護者案内には操作の手順も記載したが、間違って録音してしまうことが数件あった。録音してしまうと正しいキーワードが分からなくなってしまうので、担当者で確認し、その都度訂正する必要があった。</td></tr>
</table>

	・回答率が低いので、より多くの児童生徒及び保護者に取り組んでもらう工夫が必要である。 ・高等部等、自分で取り組むことができるように工夫が必要である。

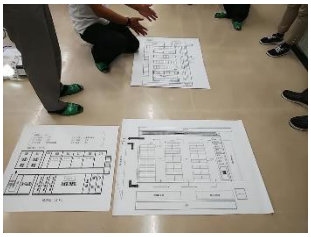
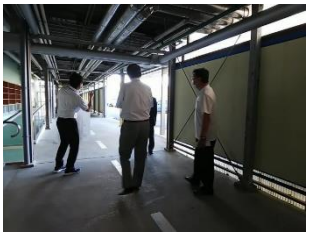
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	・災害伝言ダイヤルを体験するのが初めてという家庭が多かった。体験期間を利用し、いざという時のために使用方法を確認しておくと良いと思います。

記入日	西暦 2021 年 1 月 6 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	9
タイトル	自治会との合同研修会 ～災害時の避難所運営に備えて～
実践担当者のお名前	山本隆史

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	1 日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 7 月 30 日 16 時 00 分～17 時 00 分
実践の所要時間	1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	教職員・地域住民
防災教育の対象者の人数	約 10 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校会議室・教室
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	・講師　伊藤三枝子様（清流の国ぎふ　女性防災士会会長） ・Web 会議システム ・体育館、寄宿舎、グラウンド図面（HUG 用）

達成目標	・災害発生時の避難所運営に関する知識を身に付ける。 ・ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）の実践から、避難所となった場合の課題を知る。 ・避難所運営について、自治会と連携を図る。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法	**１．実施計画** ○研修内容検討 ・避難所運営について、自治会との連携が殆どなかったため、避難所運営について、自治会の方にも参加していただき、研修を受けることにした。 ・実際の避難所でボランティア等を経験したことがある職員がおらず、災害発生時の避難所の様子が分かる内容とした。 ・避難所運営の知識を身に付けるため、HUG（避難所運営ゲーム）を行うことにした。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、研修会場を２カ所準備し、Web 会議システムを用いて実施した。 **２．研修内容** ○日時　令和２年７月３０日（木）１６：００～１７：００ ○講師　清流の国ぎふ　女性防災士会会長 伊藤　三枝子　様 ○参加者　校長、教頭（担当）、部主事（担当）、防災安全部長 防災推進係（３名）、寄宿舎指導員（１名）、自治会 ○内容　「大規模災害に備えて　～避難所運営について～」 ・避難所運営の実際 （過去発生した災害時の避難所の様子について） ・避難所運営の流れ ・新型コロナウイルス感染症対策 ・ＨＵＧ（避難所運営ゲーム） （校内見学、ＨＵＧ実践）  

得られた成果	・避難所運営に関する知識が身に付いた。 ・避難所における新型コロナウイルス感染症対策が分かった。 ・避難所について、自治会の方と一緒に考え、課題を明確にすることができた。 ・避難所運営に関して、自治会と学校の連携の重要性を共通理解することができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	・新型コロナウイルス感染症の影響で集合型の研修会の実施が難しかったが、Web 会議システムを用いて実施することができた。 ・自治会が学校に求めることと学校ができることに大きなギャップがあることが分かった。今後、定期的に検討する場を設け、ギャップを埋めていき、スムーズな避難所運営を目指していきたい。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	①伊藤三枝子様（清流の国ぎふ　女性防災士会会長） ②日新地区連合自治会長・防災士会会長及び副会長
関係者の説明	①研修会の講師　＊詳細は実践番号２参照 ②学校がある地区の連合自治会長と自治会防災士会の会長と副会長
関係者の連絡先	①実践番号２参照

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	・自治会との連携を考えてみえる特別支援学校
伝えたい内容	・自治会の方や講師の方と話す中で、特別支援学校に声を掛けてよいか躊躇していることが多いということを聞きました。是非、学校側から声を掛けていただき、地域との連携を深めていっていただきたいと思います。